

会 議 録 (概要)

会議の名称	令和2年度第1回佐渡市公の施設指定管理者評価委員会
開催日時	令和2年7月16日(木) 13:30~16:00
場所	佐渡市役所 3階 大会議室
議題(会議内容)	<p>1 開会</p> <p>2 評価及び採点方式など全体説明</p> <p>3 議題(評価)</p> <p>(1) 真野第2保育園・西三川デイサービスセンター</p> <p>(2) 佐渡市総合体育館・佐和田テニスコート・佐和田野球場</p> <p>4 結果報告</p> <p>5 閉会</p>
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	<p>《佐渡市公の施設指定管理者評価委員》(5名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長 嶋田浩彰 ・委員 及川智子、川島敏秀、中村美登里、本間救 <p>《指定管理施設運営者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真野第2保育園・西三川デイサービスセンター 社会福祉法人 佐渡ふれあい福祉会 ・佐渡市総合体育館・佐和田テニスコート・佐和田野球場 一般財団法人 佐渡市スポーツ協会 <p>《事務局》</p> <p>防災管財課 課長補佐 伊藤修、管財係主任 長尾啓介</p> <p>子ども若者課 課長補佐 本田寿之、子育て企画係長 小島雅子</p> <p>高齢福祉課 課長補佐 小林洋、高齢福祉係長 古坂貴代美</p> <p>社会教育課 社会教育係 係長 小崎浩明、主任 渡邊恭一</p>
傍聴人の数	0人

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
	<p>事務局から昨年度委員長を務めた佐々木委員が行政改革推進委員を退任したため、同委員からの充て職として、川島委員の就任があったことの説明を行った。</p> <p>これにより委員長が不在となったことから条例施行規則第9条第1項の規定により委員長及び副委員長の互選による選任を行い、委員長は嶋田委員、副委員長は及川委員となった。</p> <p>事務局から評価採点方法等の説明の後、真野第2保育園・西三川デイサービスセンターの説明、委員からの質疑、採点、回収、その後、佐渡市総合体育館、佐和田テニスコート、佐和田野球場の説明、委員からの質疑、採点、回収を行った。</p> <p>嶋田委員長進行</p> <p>(真野第2保育園・西三川デイサービスセンター)</p> <p>子ども若者課から施設概要説明。 指定管理者佐渡ふれあい福祉会から補足説明。</p>
川島委員	<p>保育園の費用対効果について、総事業費を利用者数で割ると1人日の費用ということになるが、利用者数を総事業費で割り、1万円あたりの利用者数では平成30年1.09人、令和元年は0.81人となる。効率が落ちたように見えるがこれをどう考えているか。</p>
子ども若者課	<p>定員20人の施設で、20人であれば費用対効果が良くなる。園児が減少すると非効率となる。</p>
川島委員	<p>総事業費と収入の状況をみると、平成30年は黒字、令和元年は赤字となっているが、その場合はどうなるのか。補填されるのか。</p>
ふれあい福祉会	<p>保育園は前々年は黒字、前年は赤字、デイサービスセンターも前年決算は赤字である。社会福祉法人として多岐に事業を営んでおり、全体のプールとして運営のなかで吸収しているところです。</p> <p>保育園は少子化の影響をどうしても受けてしまうことが課題、デイサービスは羽茂でグループホーム新規開設の要員を募集し研修するため、西三川を使った。西三川デイサービスセンターの赤字の内訳がこれの研修人件費となっており、法人内でも事前投資という位置づけで運営しております。</p>
中村委員	<p>利用者満足度調査の回収率が半分なのは低いのか。</p>

ふれあい福祉会	世帯数の数字であり、園児のご兄弟がいるので少なくなっています。
川島委員	資料だけでなく福祉会のホームページも拝見した。しっかりやっていると感心したが、この施設の運営課題はなにか。
ふれあい福祉会	<p>保育園は西三川地区だけでは園児数の限界がある。少子化は西三川だけではないので、どのような保育園の運営が考えられるか、行政、保護者、事業者の三者協議を続けている。少人数保育をどうしていくべきかの意見交換をしている。保育士の雇用責任もありますので、佐渡市には少人数保育のあり方について、制度の見直しを要望としています。解決策はこのあと協議していく。</p> <p>デイサービスセンターは南佐渡と真野の狭間で、送迎のコスト、時間がかかるという条件がある。定員 22 人ですが、22 人を受け入れるキャパはあるが、平均 15、6 人で推移している。魅力ある運営、利用回数増を協議させていただいている。コスト的には真野地区は水道水への対応にコストがかかっている。施設を安全に運営するコストとして配慮している。</p>
川島委員	介護職場では職員の確保が難しい。腰痛が職業病的なことになっている。行政の仕事と考えるが、アシストスーツ、介護ロボットなどの取り組みは考えてはどうか。
ふれあい福祉会	ケアの仕方も日進月歩で改善され研修している。最新の情報を現場に活かしていく取り組みをしており、文明の利器の導入も検討していかなければならない。募集は常に出しており、ホームページでの発信、新卒者就職説明会などでも取り組んでいる。事業所全体の職員をみて配置転換や効率的な配置をする中で、要員確保している。福祉、医療の現場で人が足りないということを若い人たちに伝えていかないとならない。
川島委員	<p>介護ロボットの導入に国は補助金を出している。補助金を受けた施設のレポートを見ると、介護ロボット導入の壁は第一に慣れること。介護される側にロボットへの恐怖感がある。第二に介護する側の脱着の手間、第三にトイレが狭いために介護スーツを着ると動きにくく、トイレを広く改修する必要がある。</p> <p>このような状況を見て、佐渡市でもモデル的に介護施設に導入し、実際に使ってみていただきたい。これは行政に考えてほしい。</p>
及川委員	社会保険労務士の立場から、職員の労働条件について具体的にどのような説明をしていただけますでしょうか。
ふれあい福祉会	職員には、法人の規定マニュアルに基づいて説明しています。常に労働基準のマニュアルは常備、配置しています。介護保険上の必須研修もテーマとして盛り込まれているので、年に何度か説明しています。

<p>及川委員 ふれあい福祉会</p>	<p>就業規則も周知されているか。 全職員階層別に一般職から役職者まで研修を実施して教育しています。</p>
<p>川島委員</p>	<p>新潟県福祉サービス第三者評価というものがあるが、この評価が平成 28 年にはホームページで公表されているが、今後の予定は。</p>
<p>ふれあい福祉会</p>	<p>28 年に受けています。このあと介護施設でどこか一箇所を考えています。</p>
<p>川島委員</p>	<p>東京にふるさと回帰センターという地方移住の相談センターがあり、新潟県事務所も入っている。平成 30 年度の相談件数は長野県への移住相談が 1 位、新潟県が 2 位である。実際の移住定住の仕事は地域振興課の仕事ですが、南佐渡は果樹栽培がされている。農業振興公社があって、農業を始めたい人たちの実習生の研修をやっている。農業政策課から補助金が出ている。振興公社への補助金と人材育成投資資金などがある。</p> <p>これを佐渡市各課がチームを組んで受け入れ態勢を作れないか。民間企業であればプロジェクトとなっていく。果樹栽培と六次産業化など魅力的な受け入れメニューが作れると思う。子ども若者課は関係ないということではなくて他課と連携して若い人たちを呼ぶような施策をして欲しい。</p> <p>新潟県は移住者相談窓口をネスパスでもやっている。ふるさと回帰センターもネスパスも何千件の相談が来ている。佐渡市は、ネスパスに東京事務所をもっている。行革委員会で地域振興課長とのヒアリングは年一回なので、こういった機会なので、子ども若者課も人ごとと思わず、若い人、園児を集めるということを考える努力をして欲しい。</p> <p>(佐渡市総合体育館、佐和田テニスコート、佐和田野球場) 社会教育課から施設概要説明。 指定管理者佐渡市スポーツ協会から補足説明。</p>
<p>川島委員</p>	<p>事業収入欄の利用料金は施設利用料、自主事業等収入は独自事業収入という理解で良いか。その他収入とは何か。</p>
<p>社会教育課</p>	<p>その通りです。その他収入は主として指定管理料です。</p>
<p>川島委員</p>	<p>佐渡市は佐渡市スポーツ協会に対してこのほかに運営費補助が出ていると思いますが。</p>
<p>社会教育課</p>	<p>指定管理施設の管理とは別に運営費補助金とトライアスロン、トキマラソン、オープンウォータースイミング、ロングライドなどのイベントの委託料があります。</p>

川島委員	<p>佐渡市からの補助金、委託料は年々厳しくなるなか、佐渡市スポーツ協会の運営管理はこのままで良いのか。協会主催の「はつらつ健康教室」は参加費無料、施設利用料の100円はいただいているが、これでは指導者の人件費もなにも賄えない。</p> <p>もっとコストを意識してください。参加料を徴収しても市民が参加したいと思えるような事業を行ってほしい。スポーツ協会さんには頑張ってもらいたい。</p>
佐渡市スポーツ協会	<p>スポーツ協会の運営を考えるにあたり、自主財源を生み出していくことは重要と認識している。</p>
川島委員	<p>自主事業収入が増えていく努力をお願いしたい。スポーツジムなどは企業協賛金、団体寄付金などをもらう努力をして経営しているところが多い。協会もこのような努力をしてほしい。</p>
佐渡市スポーツ協会	<p>賛助会員は、個人2,000円、法人5,000円を集めており年々増加している。事業もコストに見合ったものに考えていきたい。</p>
嶋田委員	<p>総合体育館の施設そのものは佐渡随一の施設で私も何回も利用しているが、意見箱などを設置している。具体的にはどのくらいの意見が投函されるのか。</p>
佐渡市スポーツ協会	<p>窓口で直接要望される方が多い。</p>
嶋田委員	<p>佐渡市総合体育館も避難場所になり、昨年に対応しているとのことですが、万が一の対応はできているということで良いか。</p>
佐渡市スポーツ協会	<p>対応します。市民がくる場合の対応については深夜の可能性もあるが、マニュアル化を進めている。</p>
川島委員	<p>防災管財課の仕事かもしれませんが、食料や消耗品のストックは。</p>
防災管財課	<p>マット、毛布、水などを総合体育館に配備しています。他の施設にも分散して10,000食程度。</p>
及川委員	<p>職員の研修が少ないようですが、コロナ関係で少なくなったのか。</p>
佐渡市スポーツ協会	<p>職員研修は前々年度4回、前年3回。内容は「スポーツ指導者講習会」を2回。協会で開催したものと教育委員会と共催して行ったものもある。前々年は範囲が広く機会を多く設けていたが、前年は協会が中心になっており回数が少なくなっている。</p>

中村委員	<p>コロナで今までと変わった取り組みがあれば。</p>
佐渡市スポーツ協会	<p>3密を回避するという事で、利用者をお願いして、どう回避するかということを利用者に考えてもらう。人と人のコミュニケーションを多くしていくことがこれまでだが、今、逆のことを追求しなければならない。各スポーツ団体の指導者に頭を悩ませているが、様々な工夫をしている。</p> <p>【審査】</p> <p>4 結果報告</p> <p>5 閉会</p>